

放課後子ども総合プラン運営委員会 会議概要

1	審議会名	令和6年度第1回放課後子ども総合プラン運営委員会
2	日 時	令和6年10月24日 午後7時から8時まで
3	会 場	安曇野市役所 4階大会議室
4	出席者	清水会長、山田委員、唐澤委員、小林委員、井上委員、内田委員、松尾委員、赤羽委員、青木委員、保高委員、平野委員、秦泉寺委員、竹内委員、平林委員、太田委員、上條委員
5	市側出席者	洞部長、山越課長、古畑課長補佐、本島主査、穂苅主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和6年10月25日

協 議 事 項 等

◇会議の概要

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項
 - (1) 放課後子ども総合プラン運営委員会の任務等について
 - (2) 児童館・児童クラブについて
 - (3) 放課後子ども教室（わいわいランド）について
 - (4) その他
- 4 その他
- 5 閉 会

◇協議事項概要

- (1) 放課後子ども総合プラン運営委員会の任務等について
- (2) 児童館・児童クラブについて

- (3) 放課後子ども教室（わいわいランド）について

<委員>

現場の声を聞いていただきたい。例えば堀金小学校のスタッフ数は現在22人。ところが、スタッフ出席率は54%と半分しか来てない。原因はいくつかあり、まずスタッフの高齢化。2人入院、1人膝をケガしている。扶養の関係で勤務を抑えている人が2人。出産した方が1人。水曜日に仕事をするようになった方が1人。

昨日はわいわいランドがあり、児童は100名ほど参加したが、スタッフは10名だった。スタッフが少ないと、一輪車など、子ども達が希望する遊びをさせてあげられないこともある。市としてスタッフをもっと増やしてほしい。現在は60代がみんな働いているので、なかなかスタッフになってくれない。

本当は児童10人に対して1人でなく、5,6人に1人が理想的だと思う。登録しても参加できるスタッフが少ない現状を皆さんに知っていただきたい。

<会長>

社会教育指導員という立場からの発言があったが、保護者代表、ボランティアの立場からわいわいランドについて補足やご意見あればお願いしたい。

<委員>

お恥ずかしい話、スタッフ募集をしているということ自体を知らなかった。きっとどこかでお知らせあっただろうし、私が見落としただけかもしれないがもっとそういうことを広く年齢構わず打ち出してもらうことができれば皆さんの目に触れることがあるかと思う。広報や学校でお話あったかと思うが、なかなかそれに全部目を通しているお母さん方お父さん方は少ないのではないかな。どうにか話を皆さんの耳に届ければ、自分でも一時間なら見られるかもしれ

ないという方いるのでは。ぜひその辺を広報していただけるとありがたい。

<委員>

昨年広報してもらい、2人追加となり活動をしている。豊科北小は稼働率が低いので、活動と活動が1か月空くこともある。豊科南小学校はスタッフ少ないと思うので、北小の活動が無いときには同じ地域の中でお手伝いできるような体制を取って活動できるのではと思う。

<委員>

わいわいランドスタッフの平均年齢を見ると、社会福祉協議会で行っている朗人大学で直接話をしてもらったり、チラシを配ったりするのが良いのではと思う。毎年50人以上が学生として参加している。

<委員>

明北小は子どもの参加率が高いがスタッフ少ない。児童の保護者や民生児童委員に声をかけている。社会教育指導員とは、明科高校のボランティア部に協力してもらえないか等話をしている。

<会長>

意見の中で、広報についてあったが、事務局より現在の広報の仕方、委員からの提案にあった新たなPR先への見通しがわかれば。

<事務局>広報については、全市に対しては年に1回広報あづみのにスタッフ募集ということで掲載している。毎年年度の末にかけて、次年度のスタッフ継続の意思確認をしているが、そこで辞めてしまうスタッフの方が多いとわかった地域や元々スタッフの方が足りていない地域に対しては各公民館の社会教育指導員から地域ごとに回覧板を回すか希望をとって、要望があれば地域に回覧板を出している。

保護者に対しては、年度の最初にわいわいランドの参加希望を対象学年の全児童に配布しているが、そこにスタッフ募集について記載している。あとは年度の初回のわいわいランドの保護者説明会の折にスタッフ募集について保護者の方にお声がけをしている。

一番効果があると感じるのは回覧板で、穂高地域で回覧を回した際には大きな反響がありスタッフの数も増えた。広報に載せるだけでは記事が多いので見落としてしまうこともある。回覧板や、新しく全市に情報発信する方法も市で増えているので、そういったものも活用してより多くの方の目に留まるような広報というのを検討していきたいと考えている。

またアイデアをいただいた朗人大学や明科高校のボランティア部等の新しい対象に対しては今年度までのところ、働きかけできていないのでせっかくこの場で良い意見をいただいたので前向きに検討をして様々なところに直接お声がけをさせていただき、少しでも多くの対象の方からスタッフになっていただける方が増えればと考えている。

<会長>

児童クラブ、わいわいランド両事業に会場を提供している校長先生の立場からご意見あれば。

<委員>

わいわいランドに足を運ぶとスタッフは確かに高齢の方多いが、子ども達からエネルギーをもらっていると話をしてくれる。昨年度の会議で大学生に声をかけてみることにしている意見も出た。ボランティアではあるが、色々なところからサポートしてもらえる人を探してもらいたい。こういう時間があるというのは親御さんも子ども達もとても喜んでいる活動である。安全に活動できることが一番なので、スタッフ確保を様々な方向からやっていくことが大事である。

<会長>

学校にこだわらず、スタッフにゆとりがあるところは他の学校に融通してもらうことも含めて事務局で検討して欲しい。

(4) その他

<会長>

委員が児童クラブやわいわいランドの児童の活動の様子を見たい場合、それは可能か。どういった手続きが必要か。

<事務局>

委員の皆さまに現場を見ていただくことは重要。機会があればぜひ現場を見て感じたことを会

議で発言して欲しい。希望ある場合は児童青少年係の事務局に連絡をもらい、見学先との調整を行う。

ホームページ掲載時には、委員の名は掲載しません。